

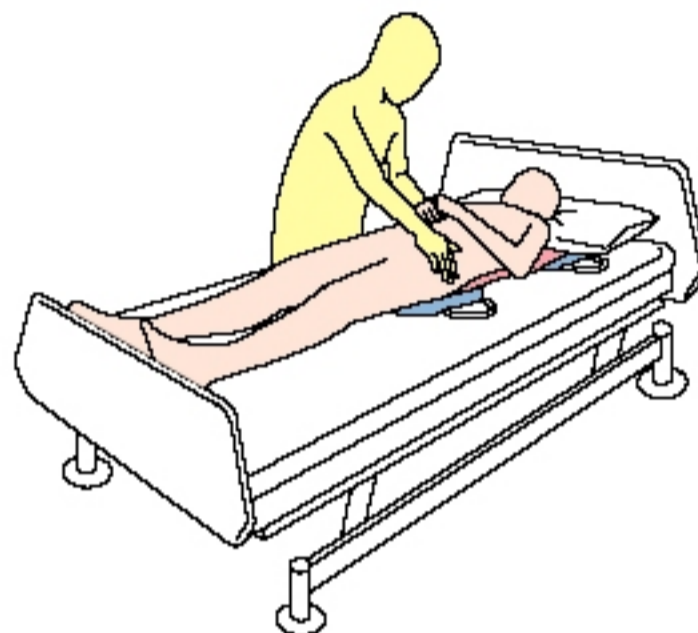
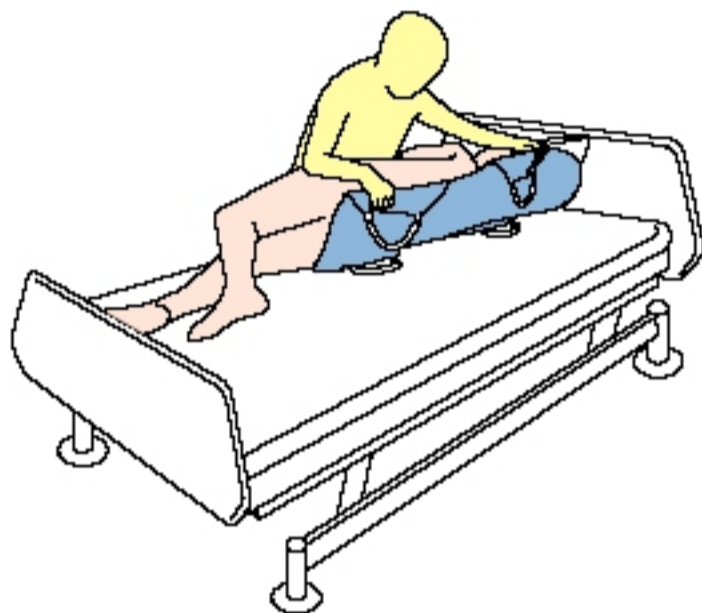


# 補助器具紹介

—MTSリフト—

## ベッド上での上方への位置修正 (MTSリフトの敷き込み方)

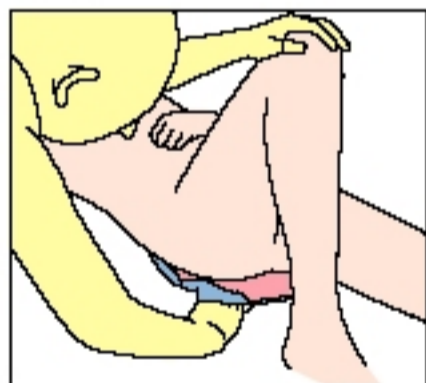
ベッドを適切な高さに調整する。



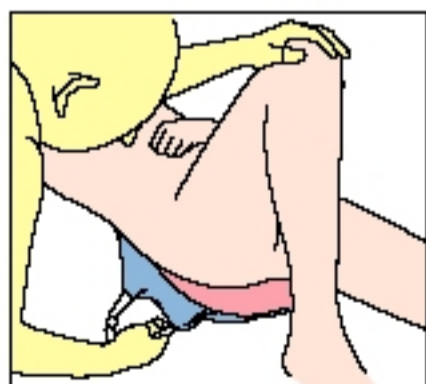
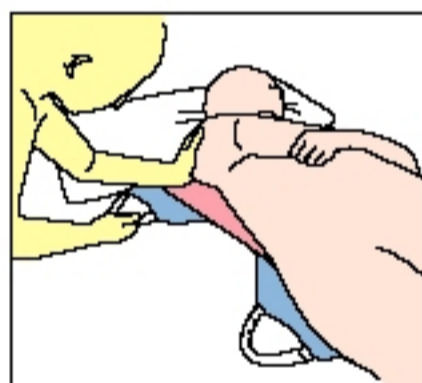
対象者を側臥位にして、介助者の前腕や体幹で、対象者を支えます。挿入側のリフトの握り手を、下側に折り返した状態で、リフトの下端を臀部より少し下の位置に、図のような角度で挿入します。リフトの下端を、臀部より少し下側に、位置する事が大切です。リフトのグリップを引くと、坐骨部を少し浮かせるようになり、マットレス面との摩擦を軽減出来るからです。

リフトの上で、対象者を仰臥位にもどします。対象者が、リフトの中央に位置している事を確認します。

臀部側



肩側



図のように、リフトの下側にある握り手を、すくうように出します。

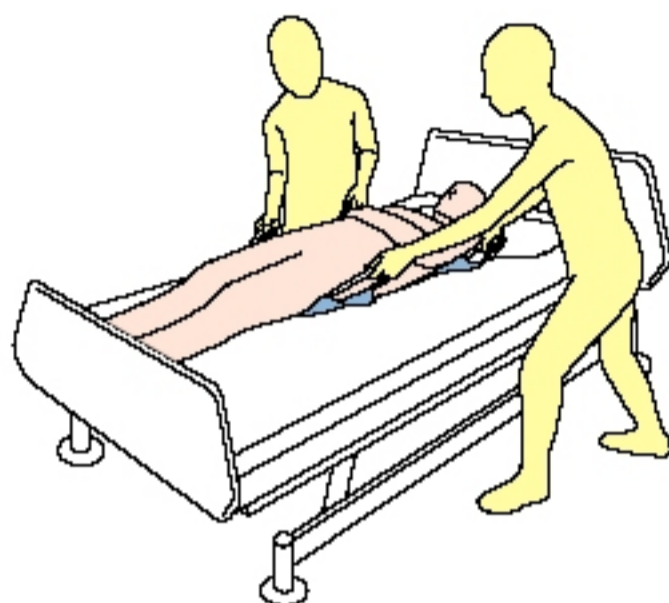
## MTSリフト



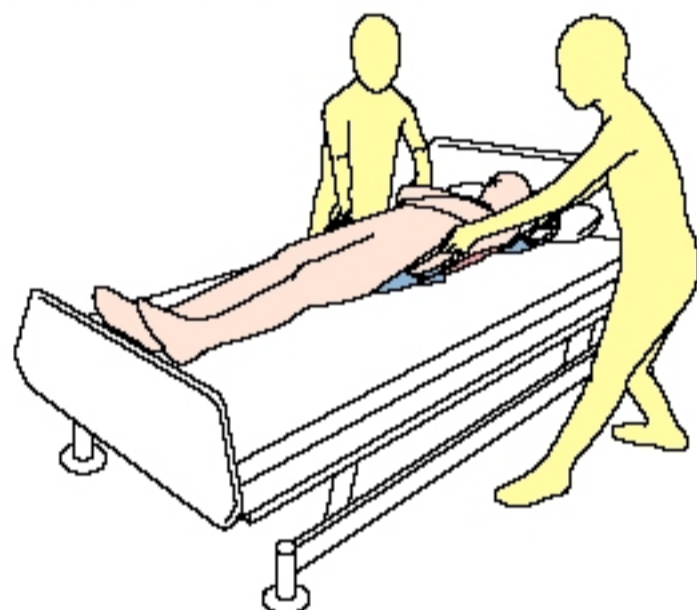
品番	5887
幅	36cm
長さ	117cm
重量	850g
材質	表材・裏材/ポリエステル100% シート材/ポリエチレン、ナイロン
製造国	ノルウェー

¥31,395(税込)  
(JAN 4524491001125)

ベッド上での上方への位置修正  
(MTSリフトを使用して二人介助の場合)

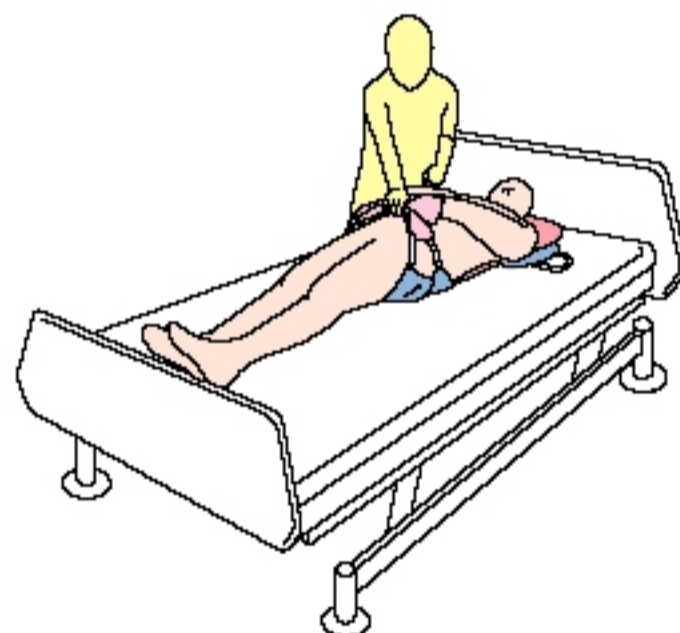
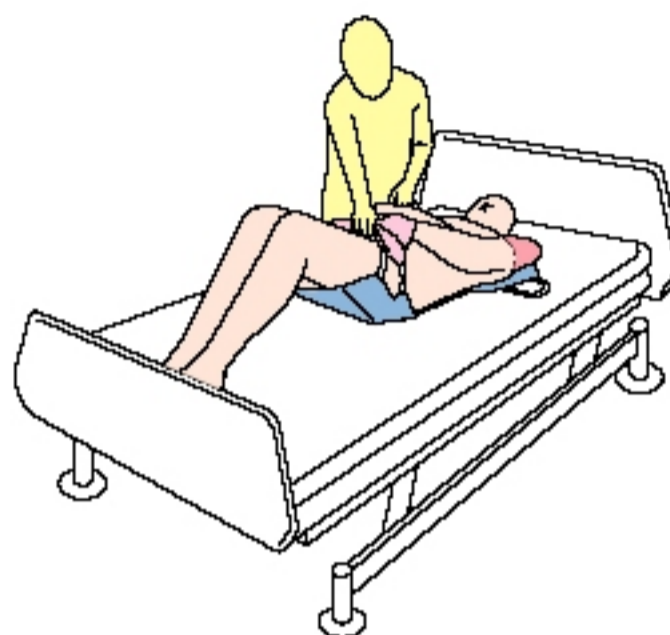


介助者は、それぞれの握り手を握って図のように、腰を捻らない作業姿勢で構えます。  
この時、脊柱は自然なカーブを保持し、膝は軽度屈曲位で、体重は前側の足にかかっています。



前側の足から、後側の足に体重を移動する事によって、対象者は、ゆっくりとベッドの上方に引きあがります。  
(腕力で引っ張って対象者を、動かそうとしないで下さい。)

ベッド上での上方への位置修正  
(MTSリフトを使用して一人介助の場合)



臀部側の握り手に、適切な布を通して一つにまとめて握り手を作り、しっかりと握ります。もう一方の手で、手前の肩側の握り手を持ちます。  
作業姿勢、作業技術は二人介助の場合と同じです。

他の使用例

- ベッド上での側方への移動
- ベッド～ストレッチャー間の移乗
- 床からの持ち上げ(仰臥位、座位)

褥そう予防マットレス、エアーマット使用時のベッド上での位置修正について

褥そう予防マットレス、エアーマットを使用している場合、「MTSミニトランス」「ノルディックスライド」といったスライディングシートを使用しても、マットの沈み込みが大きく、上手く位置修正できない場合が多くあります。  
「MTSリフト」には、芯材が入っており、褥そう予防マットレス、エアーマット上でも沈み込みにくくできています。弊社で検証したところ下記の機種において位置修正が可能でした。

使用した機種



ソフトナース(ラックヘルスケア株式会社)



エアマスターライセル(株式会社ケーブ)



アドイオン(株式会社モルテン)